

『保育内容 5領域の展開』 モデルシラバスと授業展開例

高山静子 作成 (2022年7月)

『保育内容 5領域の展開』をご活用いただきありがとうございます。

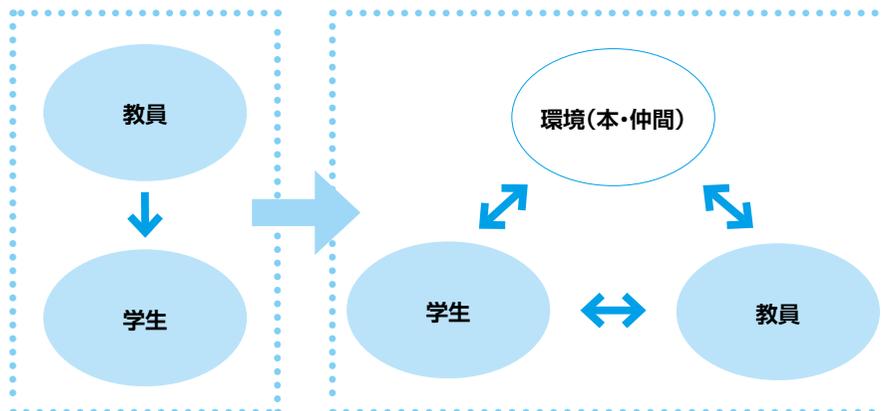
本書は、学生がグループで本を読み、演習を行うことを前提に編集しています。本文は、3人から5人のグループで読み合わせをしやすい構成です。演習を行うことで、学生の遊びや教材の引き出しを増やすことができるように工夫しています。演習の回答例や各演習の具体的な方法は、『保育内容 5領域の展開』演習問題の補足説明と回答例』をご参照ください。

本資料の目次

- 1 学生の主体的・対話的で深い学びを促す授業へ 2
- 2 教職課程コアカリキュラム 「保育内容の指導法」の到達目標 2
- 3 養成校の保育内容各科目のシラバス例 3
 - (1) 保育内容総論 3
 - (2) 保育内容・指導法 健康 4
 - (3) 保育内容・指導法 人間関係 4
 - (4) 保育内容・指導法 環境 5
 - (5) 保育内容・指導法 言葉 5
 - (6) 保育内容・指導法 音楽表現 6
 - (7) 保育内容・指導法 造形表現 6
- 4 各回の授業の進行例 7
- 5 授業内容と方法の補足 10
 - (1) 授業を考える上で前提とする主な学習理論 10
 - (2) 授業のデザイン 10
 - (3) 学習者の把握 11
 - (4) 根拠に基づく授業教材の開発 12
 - (5) 物理的な学習環境の整備と学習資源の充実 12
 - (6) 授業の方法 教材を通して主体的に学ぶグループ演習 13
 - (7) 授業方法の意図 14
 - (8) まとめ～将来保育の場につくってほしい雰囲気、今授業の場につくる 15

1 学生の主体的・対話的で深い学びを促す授業へ

本の読み合わせによるグループ学習は、生涯学び続ける保育専門職を育てます



保育内容5領域は、保育の質に直接影響を与える重要な科目です

保育の質は、指針や要領を遊びや生活に展開する際に差異が生じます。養成課程での保育内容科目は、その展開に影響を与える重要な科目です。

保育内容5領域のシラバスは「教職課程コアカリキュラム」「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容」をふまえて作成する必要があります。

2 教職課程コアカリキュラム 「保育内容の指導法」の到達目標

(1) 各領域のねらい及び内容

- 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
- 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
- 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
- 4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性

(2) 保育内容の指導方法と保育の構想

- 1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
- 2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
- 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
- 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
- 5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

『幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程を併設する際の担当者及びシラバス作成について』（保育教諭養成課程研究会、日本保育者養成教育学会、平成30年）

3 養成校の保育内容各科目のシラバス例

* 授業内容の選択とシラバス作成の留意点

1. 文部科学省と厚生労働省の通知内容に準拠しつつ、保育者として根拠に基づいて実践ができる基礎を身に着けられるように内容を組立てます。
2. 内容の選択は、他の教員のシラバスや使用テキストを把握し、養成課程全体として専門性を習得できるように配慮します。
3. 毎回個人で取り組む活動とグループの活動の両方を行うようにします。学生の状況により個人の活動は事前事後課題にできます。

(1) 保育内容総論

1. 授業ガイダンス他
2. 指針・要領の確認
3. 第1部 理論編 第1章の活用
4. 第1部 理論編 第2章の活用
5. 第1部 理論編 第3章の活用
6. 第1部 理論編 第4章の活用
7. 第1部 理論編 第5章の活用
8. 第2部 実践編 グループ演習 第1章（運動）～第5章（自然）を選択
9. 第2部 実践編 グループ演習 第6章（数量図形）～第10章（表現）を選択
10. プロジェクト・テーマ保育等総合的な実践例を学ぶ（外部講師等）
11. 学童期との連続性第2部第7章の活用
12. 指針・要領の確認
13. 計画と記録、演習課題
14. 演習課題他
15. まとめ
16. 試験

(2) 保育内容・指導法 健康

1. 授業ガイダンス他
2. 指針・要領の確認
3. 第1部 理論編 第1章の活用
4. 第1部 理論編 第2章の活用
5. 第1部 理論編 第3章の活用
6. 第1部 理論編 第4章の活用
7. 第1部 理論編 第5章の活用
8. 第2部 実践編 第1章（運動）1～4の活用
9. 第2部 実践編 第1章（運動）5～6の活用
10. 第2部 実践編 第1章（生活習慣）1～3の活用
11. 第2部 実践編 第1章（生活習慣）4～6の活用
12. 総合的な実践を学ぶ
13. 模擬保育の実践
14. 教員の専門性に基づく内容
15. まとめ
16. 試験

(3) 保育内容・指導法 人間関係

1. 授業ガイダンス他
2. 指針・要領の確認
3. 第1部 理論編 第1章の活用
4. 第1部 理論編 第2章の活用
5. 第1部 理論編 第3章の活用
6. 第1部 理論編 第4章の活用
7. 第1部 理論編 第5章の活用
8. 第2部 実践編 第3章（人間関係）1～3の活用
9. 第2部 実践編 第3章（人間関係）4～5の活用
10. 第2部 実践編 第1章（市民性）1～5の活用
11. 第2部 実践編 第1章（市民性）6～7の活用
12. 総合的な実践を学ぶ
13. 模擬保育の実践
14. 教員の専門性に基づく内容
15. まとめ
16. 試験

(4) 保育内容・指導法 環境

1. 授業ガイダンス他
2. 指針・要領の確認
3. 第1部 理論編 第1章の活用
4. 第1部 理論編 第2章の活用
5. 第1部 理論編 第3章の活用
6. 第1部 理論編 第4章の活用
7. 第1部 理論編 第5章の活用
8. 第2部 実践編 第5章 自然の活用
9. 自然に関する総合的な実践を学ぶ
10. 第2部 実践編 第6章（数量）の活用 1
11. 第2部 実践編 第8章（文字）の活用
12. 模擬保育の実践
13. 教員の専門性に基づく内容
14. 教員の専門性に基づく内容
15. まとめ
16. 試験

(5) 保育内容・指導法 言葉

1. 授業ガイダンス他
2. 指針・要領の確認
3. 第1部 理論編 第1章の活用
4. 第1部 理論編 第2章の活用
5. 第1部 理論編 第3章の活用
6. 第1部 理論編 第4章の活用
7. 第1部 理論編 第5章の活用
8. 演習2の活用 1（絵本）
9. 演習12の活用 2（5領域と関連する絵本）
10. 第2部 実践編 第7章 1～4（話し言葉）の活用
11. 第2部 実践編 第7章 5（話し言葉）の活用
12. 模擬保育の実践
13. 教員の専門性に基づく内容
14. 教員の専門性に基づく内容
15. まとめ
16. 試験

(6) 保育内容・指導法 音楽表現

1. 授業ガイダンス他
2. 指針・要領の確認
3. 第1部 理論編 第1章の活用
4. 第1部 理論編 第2章の活用
5. 第1部 理論編 第3章の活用
6. 第1部 理論編 第4章の活用
7. 第1部 理論編 第5章の活用
8. 第2部 実践編 第9章（音楽表現）1～5の活用
9. 第2部 実践編 第9章（音楽表現）6～7の活用
10. 総合的な実践を学ぶ
11. 模擬保育の実践
12. 教員の専門性に基づく内容
13. 教員の専門性に基づく内容
14. 教員の専門性に基づく内容
15. まとめ
16. 試験

(7) 保育内容・指導法 造形表現

1. 授業ガイダンス他
2. 指針・要領の確認
3. 第1部 理論編 第1章の活用
4. 第1部 理論編 第2章の活用
5. 第1部 理論編 第3章の活用
6. 第1部 理論編 第4章の活用
7. 第1部 理論編 第5章の活用
8. 第2部 実践編 第10章（造形表現）1～5の活用
9. 第2部 実践編 第10章（造形表現）6の活用
10. 総合的な実践を学ぶ
11. 模擬保育の実践
12. 教員の専門性に基づく内容
13. 教員の専門性に基づく内容
14. 教員の専門性に基づく内容
15. まとめ
16. 試験

4 各回の授業の進行例

*学習者主体の授業を行う仕組みづくり

1. 授業内で教員はファシリテーター（進行役）を行います。安心して話ができるルールづくりや雰囲気づくりを行います。ゼミでは学生がファシリテーターを行います。
2. 話し合いや発言に不慣れな時期またオンラインでは、グループは2,3人とします。活発に話す人が多い場合は4人。6人以上はお客さんが出ます。
3. 事前に相手の話を聞く姿勢と表情、うなづき等を確認または練習します。保育者として子どもが安心して話ができるようにグループで安心して話ができる雰囲気をつくることを毎回伝えます。
4. 「お互いに質問しあって相手の意見を引き出すこと」を毎回確認します。
5. 演習は練習の場であり、上手くできないことを繰り返し経験して上達するための場であることを確認します。
6. 時間は最初に目安を示しグループの進行を見守り延ばした方がよいか尋ね調整します。
7. 「保育には原則はあるが正解はない」ことを繰り返し伝えます。

*理論編 第1章の活用

1. はじめにを教員が読む、または全員で声を合わせて読みます。全員で読む場合、大きな声を出さずに他の人の声をよく聞いて声を合わせることを意識するように伝えます。
2. 3、4人のグループに分かれます。第一章を交代で読みます。読む人は言葉をていねいにグループの人に内容が伝わるように読みます。聞く人は同感、違和感、疑問等を書き込みながら聞きます。
3. 読み終わったら個人の気づきや疑問点等を集計フォームに書き込みます（オンラインで集計できるフォームを使用すると便利）。
4. グループでそれぞれの意見を聴き合います。
5. 他のグループが書いた内容をお互いに見あい、共有しながらまとめをします。
6. グループ活動、授業を通しての気づき・学びを再度、集計フォームに書き込みます。

*理論編 第2章の活用

1. 3、4人のグループに分かれます。第二章を交代で読みます。読む言葉をていねいにグループの人に内容が伝わるように読みます。聞く人は同感、違和感、疑問等を書き込みながら聞きます。

2. 読み終わったら個人の気づきや疑問点等を集計フォームに書き込みます（オンラインで集計できるフォームを使用すると便利）。
3. グループでそれぞれの意見を聴き合います。
4. 演習「園での不適切な教育を考える」を、ホワイトボードに書き込んでいきます（オンラインで共有できるデジタルホワイトボードが便利）。30分ほど使います。
5. 他のグループが書いた内容をお互いに見あいます。
6. 共有しながらまとめをします。
7. グループ活動、授業を通しての気づき・学びを再度、集計フォームに書き込みます。

*理論編 第3章の活用

1. 事前に各自が保育の絵本に関する参考資料を準備しておきます。
2. 3、4人のグループ（クラス別がよい）をつくり、第三章「保育者は何を根拠に展開方法を決めるのか」を交代で読みます。表の中も読むように指示をします。読む人は言葉をていねいにグループの人に内容が伝わるように読みます。聞く人は同感、違和感、疑問等を書き込みながら聞きます。
3. 読み終わったら個人の気づき、疑問点等を集計フォームに書き込みます（オンラインで集計できるフォームを使用すると便利）。
4. グループでお互いに質問し合い、それぞれの意見を聴き合います。
5. 演習「文化の選択」を参考に「4歳児クラスで必ず読みたい絵本」をホワイトボードに書き込んでいきます（オンラインで共有できるデジタルホワイトボードが便利）。40分ほど使います。他のグループも自由に見るように伝えておきます。
6. 教員は、ホワイトボードを共有しながらまとめをします。
7. グループ活動、授業を通しての気づき・学びを個人で再度、集計フォームに書き込みます。（演習だけで90分かかる内容のため課題とする）

*理論編 第4章の活用

1. 事前に各自が月カリキュラムや週案を複数準備しておきます。
2. 3、4人のグループ（クラス別がよい）をつくり、第四章を交代で読みます。表の中も読むように指示をします。読む人は言葉をていねいにグループの人に内容が伝わるように読みます。聞く人は同感、違和感、疑問等を書き込みながら聞きます。
3. 読み終わったら個人の気づき、疑問点等を集計フォーム（オンラインで集計できるフォームを使用すると便利）に書き込みます。
4. グループでお互いに質問し合い、それぞれの意見を聴き合います。

5. テーマを決め、ホワイトボードに書き込んでいきます（オンラインで共有できるデジタルホワイトボードが便利）。50分ほどかかります。途中で気づいた点を全体に伝えます。他のグループも自由に見るように伝えておきます。
6. 教員は、ホワイトボードを共有しながらまとめをします。
7. グループ活動、授業を通しての気づき・学びを個人で再度、集計フォームに書き込みます。

*理論編 第5章の活用

1. 3、4人のグループをつくり、第五章「不適切な保育内容の選択と展開方法」を交代で読みます。読む人は言葉をていねいにグループの人に内容が伝わるように読みます。聞く人は同感、違和感、疑問等を書き込みながら聞きます。
2. 読み終わったら個人の気づきや疑問点等を集計フォーム（オンラインで集計できるフォームを使用すると便利）に書き込みます。
3. グループでそれぞれの意見を聴き合います。
4. 課題として「なぜ不適切な保育が行われるのか」（体験が少ない実習前の学生向けまたは演習「園での不適切な教育を考える」（実習後の学生向け）をテーマに、ホワイトボードに書き込んでいきます（オンラインで共有できるデジタルホワイトボードが便利）。40分ほど使います。
5. 他のグループが書いた内容をお互いに見あいます。
6. 共有しながらまとめをします。
7. グループ活動、授業を通しての気づき・学びを再度、集計フォーム等に書き込みます。

*実践編の授業内での活用

『『保育内容 5 領域の展開』演習問題の補足説明と回答例』の演習 4～12 をご参照ください。

5 授業内容と方法の補足

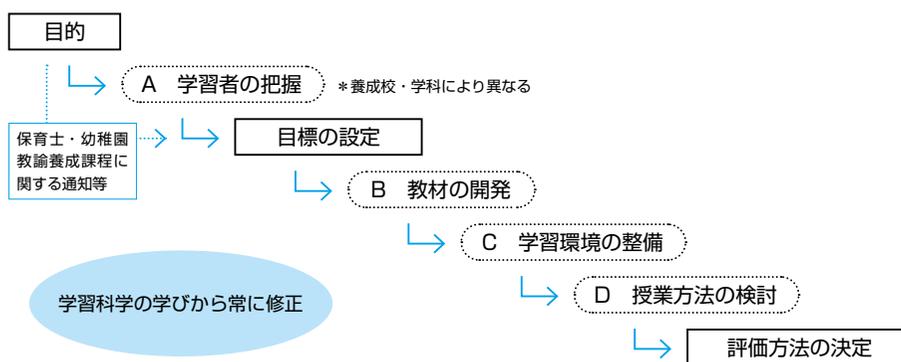
以下の内容は、全国保育士養成協議会研究大会分科会（2021.9）「保育内容『環境』の理解と指導法をめぐって～講義と演習～」で行った授業報告「養成校で授業実践を行う立場から」より内容を一部抽出しました。

(1) 授業を考える上で前提とする主な学習理論

- ・ 学習は、学習者自身の活動である。
- ・ 教員の仕事は、学生の学習の促進である。
- ・ 学生は、これから予測不可能で変化の激しい社会を生きていく。そのため学生は、主体的に学び続ける生涯学習者としての学び方や姿勢を身につける必要性が高い。
- ・ 適応的な能力の獲得には、構成的、自己調整的、状況的、協同的な学習が効果的である他

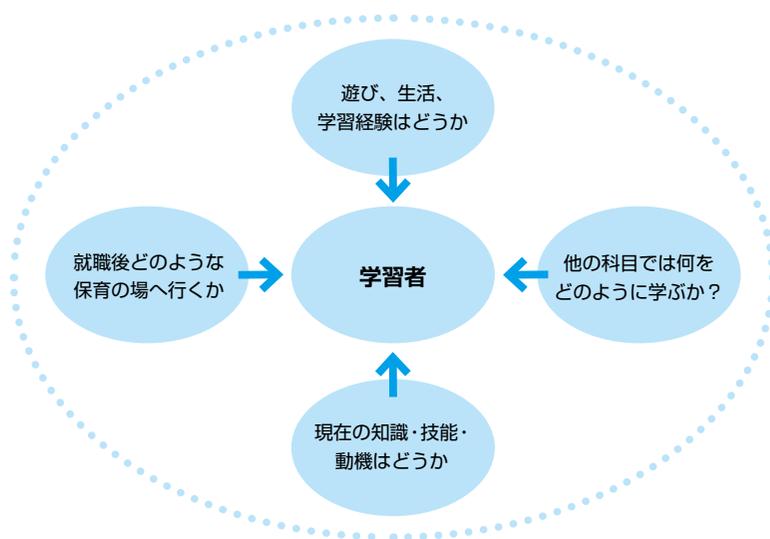
* OECD 教育研究革新センター「学習の本質」明石書店 2013 より

(2) 授業のデザイン



*ロバート・M. ガニエ他「インストラクショナルデザインの原理」北大路書房 2007 を参考に作成

(3) 学習者の把握

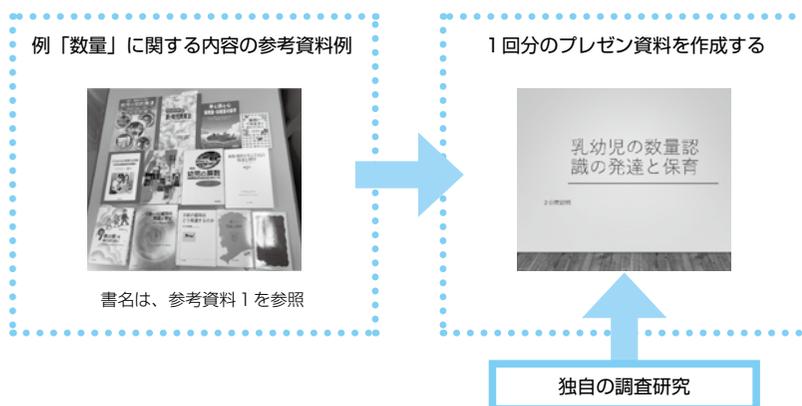


*教授内容は、学生が就職する地域、就職後にとくに必要になる力量に合わせて、優先順位をつける。

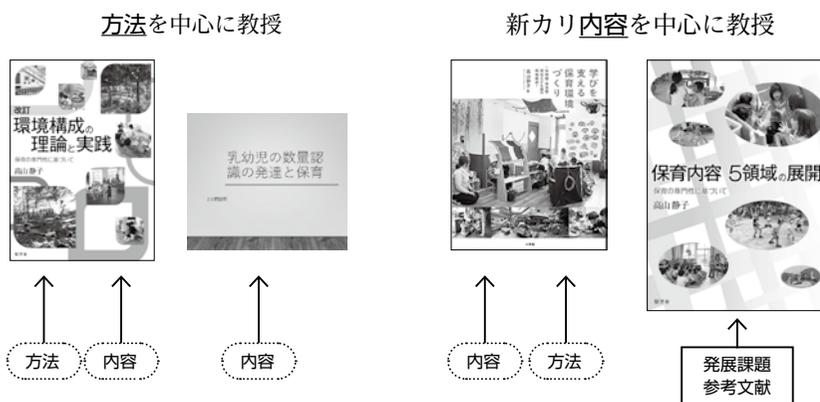
例1 数量・図形・文字等に関する発達や幼児教育の方法を優先的に授業で教授。学生が就職・実習する地域は、東京を中心とした地域であり保護者が教育熱心なことが予測される。そのため文字や数量等、園や家庭での教育虐待にもつながりやすい内容について、小学校との連続性の観点から適切な幼児教育を行い保護者に説明できることが保育者に求められるため。

例2 「散歩」「園庭」での自然との出会いを意識して教授・・・就職先は保育園が多く保育園では「散歩」と「園庭」での自然体験が中心であるため。

(4) 根拠に基づく授業教材の開発



* 保育内容 環境のねらいと内容と展開方法を理解するために開発した教材



(5) 物理的な学習環境の整備と学習資源の充実

- ・ 安心できるあたたかい雰囲気の中でグループの演習を行うための保育実習室の空間の整備
- ・ 領域環境の学習資源の充実を図る「自然科学」「数量」「図形・文字」等に関する教材整備
- ・ 学習資源の充実 環境の内容に関連する絵本「かがくのとも」等を保育実習準備室に揃える



* 書名は、参考資料2を参照

- ・ ICT 環境の活用：授業は CiscoWebex を利用 (2021 前期の対面・非対面の割合は1：4)

例1 出席管理、提出物管理、小テスト等 toyonet-Ace

例2 学生は大学より Google メールを割当。グループ演習等 Google

出席等は大学のシステムを使い、情報共有のツールは卒業後に活用できるものを使う

(6) 授業の方法 教材を通して主体的に学ぶグループ演習

・グループ演習は50名～数百名でも可能。

・対面・非対面どちらも可能

・一グループは3～5人

オンラインは3、4人

演習に慣れていない時期や時間が短いときは2、3人



- ① グループでの本の読み合わせ→課題
例) 章全体を読む時に、項を一人ずつ交代で読み進め、
その後に、意見交換や課題を考える



- ② グループでの説明→課題
例) 1つの園の説明4ページを、一人が担当しグループ内で説明。
【概要の説明】第一章は、環境を通した保育自発的な遊びを中心とした保育を行う園を紹介する章です

・90分の進行例

- ① 事前に各自が授業範囲を読んでおくことを前提とする。
- ② 教員) 章の概要を説明。演習内容と課題を示す。
- ③ 学生) グループで自分が担当する箇所を決める。
- ④ 学生) 各自で作戦タイム。担当箇所の説明を考える。(対面ではジグソー法もできる)
- ⑤ 学生) 順番に説明を行う。
- ⑥ 学生) 読み終わったら、お互いの気づきと疑問点を聞き合う。
- ⑦ 学生) 課題について話し合い各自がレポートに入力。
- ⑧ 教員→学生) 全体でいくつかのグループ、個人から意見、疑問点を出して意見交換を行う。
- ⑨ 学生→教員) 質問のある人は残り、終了。

(7) 授業方法の意図

[主体的で対話的な学びの促進]

- ① 学生の参加度、活動性を高め主体的な学びを促す。(とくにオンライン)
- ② 教材を通した学びを行い、学生と教材の対話的な学びを促す。
→読み合わせの際には、聞く人は、漫然と聞かずに、同感、驚き、違和感、疑問など
印や付箋をつけながらアクティブに聞く。

[保育に必要なスキルの修得]

- ① 本を読み合わせするプロセスで、保育者として必要な応答的な話し方、相手に届く声、聞き取りやすい言葉、絵本等の読み方などのスキルの獲得を促す
→グループで本を読む際には、「相手に伝わりやすいように言葉を丁寧に読むこと」
「絵本の読み聞かせのように読むこと」を伝えている。
- ② 本の内容を説明するプロセスにより、子ども、保護者や小学校の教員等に分かりやすく説明する、スキルの獲得を促す。

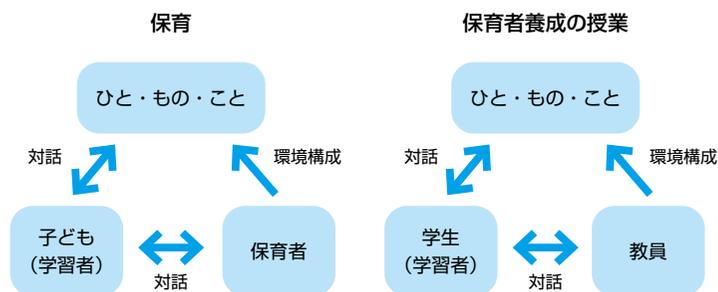
[メタ認知の向上]

- ① 本の内容を説明するプロセスで、「事実」と「自分の考え」を分ける思考の習慣を促す。思い込みや推測を事実と混在する思考や表現の習慣を減らすことを促す。
→本の内容を説明する際は、「と説明されています」「と示しています」と記述されている事実を説明し、「思います」「考えた」は使わないこと、自分の考えは意見交換のときに話すことを伝えている。

[学び方を学ぶ]

- ① 学び続ける専門職として「教員の講義を受けて正解を学ぶ、正解を推測する」姿勢から、「主体的に本を読み学び考える」という学び方を知る。
- ② 短時間でチームで本を読み、専門知識を共有する園内研修の方法を知る。
- ③ 学んだ知識を現実的な課題解決に使う演習を繰り返すことにより「学びの伴う実践の振り返り」の方法を知る。あきらめずに課題を解決し続けようとする姿勢をもつ。

(8) まとめ～将来保育の場につくってほしい雰囲気、今授業の場につくる



〈参考資料1〉数量の教育内容を考える資料

- 田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断』大月書店 1986
 津守真、磯部景子『乳幼児精神発達診断法 3才～7才まで』1965、津守真、磯部景子『乳幼児精神発達診断法 0才～3才まで』1995
 田中敏隆『子供の認知はどう発達するのか』金子書房 2002
 芳沢 光雄『AI時代を切りひらく算数「理解」と「応用」を大切にす6年間の学び』日本評論社 2019
 清水益治 森敏昭『0歳～12歳児の発達と学び：保幼小の連携と接続に向けて』北大路書房 2013
 脇中起余子『「9歳の壁」を越えるために：生活言語から学習言語への移行を考える』北大路書房 2013
 『モンテッソーリ教育 算数教育—理論と実践』1985、『モンテッソーリ教育 モンテッソーリ教育の理論概説—理論と実践』1985
 井上初代、古川伸子『遊び・環境の中で育つ幼児の知的発達—保育者の援助・役割』明治図書出版 2002
 ジャーンボキ カーロイネー他『手と頭と心 保育園・幼稚園の数学』明治図書出版 2011
 マイバ保育園保育者集団『ハンガリーマイバの教育プログラム「幼児教育」の考え方と実践』明治図書出版 2001
 榎原知美『算数・理科を学ぶ子どもの発達心理学：文化・認知・学習』ミネルヴァ書房 2014
 ローラ・E. パーク他『ヴィゴツキーの新・幼児教育法—幼児の足場づくり』北大路書房 2001
 ジャン・ピアジェ他『新しい児童心理学』白水社 1969
 コンスタンス カミイ他『子どもたちが発明する算数—ピアジェの構成論にもとづく教育』大学教育出版 2003
 J.D. ハーレン他『8歳までに経験しておきたい科学』北大路書房 2007
 栗原 九十郎『新版 幼児の算数—あたらしい教育要領と保育指針』あゆみ出版 1990
 波多野完治 滝沢武久『子どものものの考え方』岩波新書 1979
 和久洋三『遊びの創造共育法 第4巻 積木遊び 遊びの創造共育法』玉川大学出版 2006
 大迫あき『算数ができる子の親がしていること』PHP 研究所 2014
 出口汪『2歳から12歳の脳がグングン育つ 論理の力』水王舎 2019
 高濱正伸『小3までに育てたい算数脳』エッセンシャル出版社 2005
 高山静子他『保育士が発揮する教育的機能、保育所における教育的機能に関わる実証的考察とその活用、児童関連サービス調査研究等事業報告書(財) こども未来財団 2010
 文部科学省「小学校学習指導要領」平成 29 年告示

〈参考資料2〉絵本や図鑑

- 『宇宙』『地球』『海』『人間』(科学シリーズ)、『かわ』(こどものとも絵本)、『絵巻じたて ひろがるえほん かわ』
 『ゆきのひ』(こどものとも傑作集)、『どうぐ』(かがくのえほん)、『ちのはなし』(かがくのとも絵本)
 『かさぶたくん』(かがくのとも絵本)、『はははのはなし』(かがくのとも絵本)、『あなたのいえ わたしのいえ』
 『地下鉄のできるまで』『万里の長城』 福音館書店
 『ほねはおれますだけです』(かこさとし からだの本) 童心社
 『よわいかみ つよいかたち』(かこ・さとし かがくの本) 童心社
 『うつくしい絵借成社ピラミッド—その歴史と科学』『小さな小さなせかい—ヒトから原子・クォーク・量子宇宙まで』
 『大きな大きなせかい—ヒトから惑星・銀河・宇宙まで』 借成社
 『あめ、ゆき、あられ くものいろいろ』『じめんがふるえる だいちがゆれる』『ひをふくやまマグマのばくはつ』 農山漁村文化協会

参考文献

- OECD 教育研究革新センター「学習の本質」明石書店 2013
 ロバート・M. ガニエ他『インストラクショナルデザインの原理』北大路書房 2007
 ロバート・キーガン『なぜ人と組織は変わらないのか』英治出版 2013
 松下佳代『資質・能力とアクティブ・ラーニングを捉え直す』グループディダクティカ『深い学びを紡ぎ出す教科と子どもの視点から』勁草書房 2019 p.p. 3-25
 高山静子『保育者養成における学生の活動性を高める授業実践の試み：授業のプロセスと保育実践との関連に焦点を当てて』保育者養成教育研究 (1), 49-59, 2016
 高山静子『自発的な遊びを重視する保育者を養成する学習環境の研究：保育実習室の整備に伴う学習経験の変化に焦点をあてて』生活体験学習研究：日本生活体験学習学会誌 16, 65-73, 2016
 高山静子『「保育内容」科目を教授する教員に求められる知識と技術』保育士養成協議会第 48 回大会, 2009.